「北関東地区　見学と新年会」レジュメ

日時：2013 年 1 月 12 日（土）　10:40　～　17:50
場所：那珂核融合研究所、東海村テクノ交流館リコッティ

日本技術士会原子力・放射線部会、茨城県支部、日立原子力技術士会、ＪＡＥＡ技術士会の共催で題記の会合が開催された。会合は「見学会」と「新年会」の二部構成であり、参加者は「見学会」が 23 名、「新年会」が 22 名、全体で 27 名であった。以下に概要を報告する。

第Ⅰ部（日本原子力研究開発機構・那珂核融合研究所の見学会）

1 月 12 日（土）10:40 東海駅西口に集合し、貸切バスに同乗して那珂核融合研究所へ移動した。

研究所では杉本誠 会員（那珂核融合研究所に所属）他 2 名が出迎えてくれた。最初に展示館ホールで杉本会員から概況説明があった。日本、欧州、米国、ロシア、韓国、中国、インドの 7 極による国際協力で設計、建設、研究を進めている国際熱核融合実験炉（ＩＴＥＲ）計画について概要が紹介された。また、那珂核融合研究所で建設を進めている核融合装置 JT-60SA 計画の現状が紹介された。

次に、JT-60 制御棟に移動し、以前の核融合装置 JT-60 の歴史や成果についてパネルを使って紹介があり、JT-60 運転制御室の中を見学した。その後、機器収納棟へ移動し、撤去された JT-60 装置をガラス越しに見学した。JT-60 が設置してあった場所は JT-60SA 設置に備えて現在準備中であり、超電導コイルなど大型の機器がこれから次々と搬入されるとのことであった。

核融合の開発研究は開始されてから既に半世紀近くが経過したが、実用化までには、プラズマの長時間安定化、プラズマ高熱流束対向機器の開発等、未だ不透明な技術である。これまで世界中で巨額の資金を消費してきた核融合の技術が夢に終わることは許されない。ＩＴＥＲ計画が核融合炉実用化への最終ステップになることを期待する。

第Ⅱ部（新年会）

主催:日本技術士会　原子力･放射線部会
共催:日本技術士会　茨城県支部、日立原子力技術士会、JAEA 技術士会
日時：2013 年 1 月 12 日（土）　14:10～17:50
場所：東海村 JAEA テクノ交流館リコッティ１階　会議室
参加者：２２名（東京大学：１名、日本技術士会：１名、茨城県支部：３名、日立関連：７名、JAEA：７名、その他：３名）
内容：

司会進行（原子力・放射線部会副部会長：後藤氏）

１．開会の挨拶（原子力・放射線部会部会長：桑江氏）

ロンドンオリンピックで銀メダルを取った卓球女子団体で福原選手の言葉「１＋１＋１＝３ではなく４にも５にもなる。」が印象に残っている。技術士会の活動もこうありたい。

２．挨拶（日本技術士会参与：竹下氏）

福島原発事故の後、茨城県笠間市のアドバイザーになっている。先日、住民 100 人近く集まった会合に出席して放射線に関する質問に対応した。笠間市は食品中のセシウム濃度制限値を国より厳しい 100 ベクレル/ｋｇに設定している。

３．乾杯（茨城県支部支部長：本田氏）

北関東地区に所属する技術士のうち半数近くが原子力・放射線部門である。これは他の都道府県では見られない現象であり、茨城地区で原子力・放射線関係の職場が多いことによる。

４．原子力・放射線部会活動報告（原子力・放射線部会部会長：桑江氏）

原子力・放射線部会の最近の活動が報告された。特に、一昨年の 3.11 以降の福島県民への支援活動等、部会の取り組みについて紹介があった。

５．茨城県支部活動報告（茨城県支部支部長：本田氏）

茨城県支部の活動が報告された。昨年６月に行われた茨城県支部発足披露祝賀会の状況、茨城県内で行われた各種行事への出展協力、ＣＰＤミニ講演会の概要などが紹介された。

６．日立原子力技術士会活動報告（日立原子力技術士会：林氏）

日立原子力技術士会の活動が報告された。昨年 12 月に行われた文部科学省技術士分科会に林氏が出席して，日立原子力技術士会の活動の紹介と，原子力分野における技術士資格の公的活用のための施策を要望した。

７．JAEA 技術士会活動報告（JAEA 技術士会：栗原氏）

JAEA 技術士会の活動が報告された。ＪＡＥＡ内で原子力・放射線部門の技術士二次試験合格者は過去８年間で７３名いるが、技術士会員は３６名でほぼ半数である。年度ごとのＪＡＥＡ内合格者数のグラフにより、平成 19 年度をピークに合格者数が激減している状況が示された。原因はＪＡＥＡ内での技術士活用が進んでいないため人気がなくなったと説明があった。

８．参加者の近況報告および提案

参加者から自己紹介と近況報告および提案があり、和気あいあいの中で質疑応答が行われた。技術士活用についての意見や提案が多かった。

９．尺八演奏

17 時ごろに東京大学の岡本教授が仕事終了後に駆けつけていただき、伊藤会員とともに尺八による見事な合奏が 30 分近く披露された。

１０．　　写真撮影

１１．　　閉会挨拶（原子力・放射線部会副部会長：後藤氏）

栗原良一 記